

臓器病態学Ⅲ

Organ Pathology Ⅲ

単位数：5 単位

○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学	佐野千晶 教授：地域医療支援学
渡部広明 教授：Acute Care Surgery	松本 健一 教授：総合科学研究支援センター (生体情報・RI 実験部門)
荒木亜寿香 准教授：器官病理学	門田 球一 教授：器官病理学
津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科	山根 正修 教授：呼吸器外科学

1. 科目の教育方針

呼吸器疾患は、感染症、腫瘍、アレルギー、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群・呼吸不全の6領域に大きく分類される。研究者育成コースでは各領域のトランスレーショナルリサーチの理解と実践を目的とし、高度臨床医育成コースでは関連学会専門医（日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会、がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会）取得のカリキュラムに準じて履修し、資格試験に求められる知識を習得する。また、分子内科学の時代の幕開けに対応した、分子呼吸器内科学についての知識を習得する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 呼吸器疾患のトランスレーショナルリサーチの現状について理解する。
- 2) 呼吸器疾患診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。
- 3) 呼吸器疾患診療において必要とされる包括的なマネジメントについて理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 呼吸器疾患の分子病態学を説明できる。
- 2) 呼吸器疾患の診断と治療方法を説明できる。
- 3) 呼吸器疾患の実地医療において求められているものは何であるかが説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Harrison's Principles of Internal Medicine, 20th Edition
- 2) 内科学 第12版 朝倉書店 29,000円

- 3) Spencer's Pathology of the Lung, 6th Edition, Cambridge University Press, 2013
 4) American Journal of Surgical Pathology, Lippincott Williams & Wilkins
 5) 日本外傷学会外傷専門診療ガイドライン編集委員会編、外傷専門診療ガイドライン改訂第2版、へるす出版、東京、2018

6. 教育内容

【講義】 呼吸器画像診断、呼吸器検査法、呼吸器感染症、肺癌の診断と治療、気管支喘息慢性閉塞性肺疾患、びまん性肺疾患、間質性肺炎、急性肺損傷、睡眠時無呼吸症候群、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺癌、感染対策、疾患の分子生物学的解析（プロテオーム解析）

【演習】 呼吸器合同カンファレンス（病理カンファレンスを含む）
 がんプロフェッショナル養成基盤推進プランセミナー（関連行事）
 呼吸器・臨床腫瘍学セミナー、呼吸器・臨床腫瘍学抄読会
 出雲胸部X線セミナー、島根感染対策セミナー

回	授業内容	担当
1	呼吸器疾患の病理診断	門田 球一
2	呼吸器疾患の剖検診断	荒木亜寿香
3	呼吸器救急疾患および呼吸器外傷の初期対応	渡部 広明
4	急性呼吸不全とその対応	渡部 広明
5	呼吸器疾患の発症要因	松本 健一
6	呼吸器疾患のバイオマーカー	松本 健一
7	抗酸菌症の基礎と疫学	佐野 千晶
8	呼吸器感染症に対する生体防御	佐野 千晶
9	びまん性肺疾患の病理診断	荒木亜寿香
10	間質性肺炎のMDD (multi-disciplinary discussion)	磯部 威
11	気管支喘息治療の進歩 (1)	磯部 威
12	慢性閉塞性肺疾患治療の進歩 (2)	磯部 威
13	肺癌の診断と治療 (内科)	津端由佳里
14	肺癌の診断と治療 (外科)	山根 修
15	呼吸器疾患: Year in Review	磯部 威